

風

発行所
堀田賢逸後援会

平鹿町醸造字醸磨98-2
TEL 0182-25-4011
e-mail:igohotta@amber.
plala.or.jp

「私はこう考える」

*重点3項目に対する町民の声

町村合併の日程が大詰めを迎えていました。新市構想について、誰もが大いに関心のあるところですが、作業は当事者中心に進められていますから、一町民としての意見はほとんど反映されないのが実態です。そこで、いま最も重点事項と思われる次の3点について、地元醸磨地区の10人の方にアンケート方式で伺つてみました。

まず設問とその回答を紹介します。

1 合併の時期について
10月1日合併が良い 8人
2人

合併協議会は10月1日としていますが、9月1日とすることをどう思いますか。平鹿町議会の任期は9月1日まで平鹿町議会議員選挙には700万円ほどの経費が予想されています。

2 新横手市の庁舎の位置について
① 平鹿町内 ② 横手市工業団地（桜沢） ③ 新平鹿病院予定地付近 等多くの意見が出ています。それは国道107号線を中心にお話が進んでいるような気がしますが、東西南北を視野に入れて、国道13号線方面も考へるべきだと思いますがどうですか。

平鹿町内

工業団地 5人
3人

3 ゴミ問題について

合併協議会の協議項目ではありませんが、今後の重大な課題となるだろうことから意見を伺つたものです。

「ごみを減らし」には異論は無いが、不法投棄・ごみの分別など、今でも問題が多いだけに、その方法の難しいことが異句同音に述べられています。

以上、いたいたいた意見の内容について整理してみましたが、10人というしかも限られた地域の意見ではありますが、平均的な考えが現れているものと思われます。これが発行され、皆様の手元に届く頃には状況が変わっているかも知れませんが、身近な町民の貴重な意見として受けとめ、参考にさせていただきます。

横手平鹿市町村圏組合で行つて事業の一つに「ごみ焼却施設」があります。昭和47年度の「東部ごみ焼却施設」建設から平成12年度の「西部ごみ焼却施設」の改良工事まで、炉改修や施設の拡大、ダイオキシン対策工事など38回にわたって事業が行われています。その総事業費は約107億円（起債約77億円・一般財源約13億円・国の補助約17億円）です。このよだんな現状を見ると、覚悟をして「ごみ減らし」をするのか、このままでいくべきか、どう思いましたか。

ごみ減らしを覚悟して進める
このままで良い 8人
2人

2
新横手市の庁舎の位置について
「工業団地」利用の意見が一番多くなっていますが、理由として、遊休地の有効利用になり、十二分な駐車場の確保が可能で、総合的な機能を付加してほしいとの具体的な意見を添えて下さった方もおりました。次いで多い意見は、「平鹿町内」ですが、庁舎を地元にとの希望の現われだと思います。

3 ゴミ問題について
合併協議会の協議項目ではありませんが、今後の重大な課題となるだろうことから意見を伺つたものです。

「ごみを減らし」には異論は無いが、不法投棄・ごみの分別など、今でも問題が多いだけに、その方法の難しいことが異句同音に述べられています。

1 合併の時期について
任期1ヶ月の選挙は無用な経費も掛かるし、公約も絞れない空虚な選挙になりますから、「9月1日合併」を期待する意見が多く、「10月1日合併」の意見の中にも、法規の運用で任期を延長して選挙回避すべきとの意見が含まれていました。

2 新横手市の庁舎の位置について
「工業団地」利用の意見が一番多くなっていますが、理由として、遊休地の有効利用になり、十二分な駐車場の確保が可能で、総合的な機能を付加してほしいとの具体的な意見を添えて下さった方もおりました。次いで多い意見は、「平鹿町内」ですが、庁舎を地元にとの希望の現われだと思います。

年頭にあたつて

後援会長 藤原 正

風鈴



輝かしい新春を迎えると、お慶び申し上げます。昨年は、世界（スマトラ沖地震）日本（上越地震）本県（台風、豪雨）横手平鹿（増田合併台風）と災害が多く、早く忘れない年でした。幸い一年と言う区切りがあり、新たな気持ちでスタートできるのは何と有難い事でしょう。しかし考えてみると正月からいい事尽くめとはいきません。昨年の尻拭いはしつかりやる必要があり今年も難問山積の年となるでしょう。さて今年は何がどうあれ新横手市の市議員の選挙があると思います。我々の代表である堀田氏は去年の夏すでに立候補の意志を表明しています。彼が公務員を辞し平鹿町議となつて三年半、行政に一番うといと言わながら一心に勉強し活躍した実績はめざましいものがありました。（次回、風8号で紹介予定）一見、普通にまじめに一生懸命やつた結果なのであります。一方、本後援会も会報の発行、勉強会の開催、仲間作りなど手がけてまいりましたが、まだまだ力不足でした。

大選挙区の世界で堂々と羽ばたける後援会にするには、まずは人心を一新し、多くの人々と手を結び、隅々の声を堀田氏に届ける体制が必要と考えられます。幸い今年は役員改選の年であり、これまで役員は地元だけで占められていきましたが、この度は広く人材を求める万全の体制を築くと同時に会員の拡大を図り、相互の連絡を密にしながら大きく脱皮したいものと念じております。

これから広域になればなるほど私たちの声を中央へ伝達するのが難しくなるのが必然です。私たちの代弁者を擁し中央への道筋を確保し新横手市建設へ微力を尽くしてゆこうではありませんか。

これからも皆様の倍旧のご支援を心からお願い申し上げる次第であります。

日本漢字能力検定協会が、昨年の暮れ「今年の漢字」に『災』を選んだ。好ましい文字ではないので認めたくないのだが言いたいので否定できない▼オリビックでの日本選手の活躍や、イチローの年間最多安打記録達成など素晴らしいこともあったが台風23号などの大型台風や、新潟中越地震による被害があまりにも悲惨であった▼自然災害だけなく人災も多かつた。特に親の虐待や誘拐殺人など少年少女が被害にあう事件が目立つた。にせ札行使や振られ込め詐欺に少年少女が加担しているというショックなこともあります。が、大人に利用され巻き込まれた被害者とも言える▼どうしてこのように事が起るのか。単純なものではないと思うが、人と人との付き合いがうまく出来ていないこともあります。原因のひとつだと思う▼家庭での家族の付き合い、地域での近所付き合い、学校や遊びでの友達づき合い、職場での人間関係等昔のような親密な付き合いがされているだろうか

▼社会は経済活動を軸に動くといわれるが、あらゆる分野で競争が国際的になって、家庭ではそれ違いが、職場ではリストラにおいてモノが言えないなど、まともな人と人との関係が保たれなくなってしまっています。▼自然災害と違つて人災は防ぐことが可能だ。人間の特権である「言葉」を用いて身近なところから親密度をより深めたいものだ▼「今年の漢字」は明るくて、ホットするものになつてほしい。

3 ゴミ問題について
ゴミ問題について、これまでの意見の内容について整理してみましたが、10人というしかも限られた地域の意見ではありますが、平均的な考えが現れているものと思われます。これが発行され、皆様の手元に届く頃には状況が変わっているかも知れませんが、身近な町民の貴重な意見として受けとめ、参考にさせていただきます。

編集部



私の一般質問

堀田 賢造

○ 中越地震について

○ 「平鹿町」地域水田農業ビジョンについて
平鹿町の基幹産業は米作りですので、いつかは農業問題の一般質問をしたいと考えていました。そんなとき大阪府の教科書（小学校五年用社会科）で横手盆地は米作りの盛んな所として詳しく紹介されているのを見つけ、全国的に有名なだと再認識しました。また去年（平成16年）改正食糧法が4月から施行され、米は「売れなければ、作れなくなる」と聞き、これは大変なことだと思いました。そんなわけで質問してみました。

問い合わせ 「平鹿町」地域水田農業ビジョンに取り組んだ結果はどうだったか

答弁 一、米の販売計画は今後の販売となるのでまだ数値は把握していないが、醸造用米は12tと増えている。二、品種構成は「めんこいな」の減少から「あきたこまち」の作付けが増加した（93%）。三、特別栽培米は400haに増加した。四、主要作物の作付面積は大豆250ha、雑穀25・4ha、野菜104haなどとなっている。五、生産調整の実施状況は町全体で実施面積1136・8ha、達成率は101・5%となっている。

問い合わせ 担い手基盤整備事業（1ha）の取り組みについて

答弁 これまでの基盤整備事業（10a～30a）については93%完成している。今後の基盤整備事業（1ha）については十五野、柄内地区が済み、鍋倉、高野、里見地区が現在進行中である。この取り組みは各地域からの要望に基づき進める事業であるので町全体としての計画は無い。

○町長の政治姿勢について

平鹿町町長の任期が六月二十七日なので出馬の意思を質問しました。

問い合わせ 次期、町長選出馬すべきではないか

答弁 合併で先送りの課題も残っているし枠組み変わり予断を許さない事態である。

問い合わせ 今後、特別栽培米が当たり前の栽培方法になるのか

答弁 拡大すると思う。

問い合わせ 特別栽培米の指導は考へてあるのか

答弁 化学肥料から有機肥料への転換を勧めるためにも有機センターのPRを考えている。

問い合わせ 大豆の一等比率が低いのはなぜか、また耕地利用型の大豆を栽培すると思う。

答弁 畑地の配水対策が悪いので上質の大豆は取れないと思う。平鹿町は米に向いた土地である。33%の転作を消化しなければならないので有利な大豆をやっている。これ以上の面積拡大やプロッククローリーションは難しいと思う。

○ 地震が発生しました。この原稿を準備していた頃にはスマトラ島沖地震（十一月二十六日）も発生。津波による被害は一月十二日現在二十万人大と大災害となりました。被害に遭われました人々に、衷心よりお見舞い申し上げます。さて、去年は醸翻地区でアンモニアガスが漏れる事故がありました。このような事が続いているので、皆さん防災に対する関心のある時期であります。

問い合わせ 自分たちの地域の避難所はどこなのか。

答弁 役場、留守部隊の連絡体制は十分なのかな。

問い合わせ 上、下通り、石成地区の避難所は醸翻公民館である。避難場所、避難所、緊急出動などチエックし十分な態勢を作り直す。

○定年退職者の後補充について

問い合わせ 半年後の合併が成功するか否か不明だ、職員の補充は長期展望にたって考える必要があるのではないか。

答弁 合併協の申し合わせで来年度採用しない事に決めている。合併すると職員の削減があるが、待っている時採用は出来ない。臨時職員で対応したい。

醸翻地区避難所一覧

対象地区	避難所名
上通り、下通り、阿弥陀田、馬鞍、石成、野中、関合	醸翻公民館 電話 25-4001
釜の川、下笠田、明沢	醸翻小学校 電話 25-4204
上醸翻、大橋、下村、石ノ塔、沖田、三島、下醸翻、深間内、萩の目、樋の口、荒処、金屋、本堂	平鹿中学校 電話 24-0075

編集後記

女が農業やれば品質が向上する？

当町の議員達も、それぞれの議員活動に精を出していることと思いますが、堀田氏のそれは群を抜いていると言えます。十二月の議会では初めて農業問題を質問されましたが、それが何よりも印象的です。そこで、その一つに「売れる米づくり」があります。そのため、「売れる米とは、つまり、安全でおいしい」という言葉が、これまでよく使われてきました。一般的に米づくりは男がやっていますが、それを女がやつたらどうだろうかと考えることがあります。

男と女は考えることや行動が本質的に違うわけですが、男は子孫繁栄の戦略も条件さえそろえば無限に近い子を残すことができるのに対し、女は妊娠、出産、授乳などの子育ての手間がかかるので残せる子の数はかなり少くなると思います。つまり男は「質より量」女は「量より質」を重視する先天的能力を身につけています。

と考へられ、そんな男が稻作をやっているとどうしても本能が邪魔して量をとるところに傾いてしまう。米の不足の時代はどちらとも現状の米余りの時も、つい本音で量をとる事になります。

私は農業をやっている女性を二三知っていますがみな男、顧負けのいい米を取つてみてもハカがでしようか。

○ 津波に襲われたインド洋に浮かぶ島、モルジブ。友達からいたたまれたモルジブ製の風鈴が澄んだ音色を開かせてくれます。一日も早い復興をお祈りします。

○ 堀田賢逸後援会報「風」第7号を発行するにあたって考えた。後援会としては「風」7号をどの位置付けとし、その結果どのような内容とするべきなのか、また発行の時期はいつにするのか。

編集委員会のテーマは、いつもこのような素朴な原点から始まっています。

今回は合併関連重点三項目について意見を伺つてみることにしました。

この作業も醸翻地区を回つて歩くことで、意見を伺つてみることにしました。

そして、数々の貴重な意見をいたしました。

その反響をいたぐ。このサインが編集委員会の続いている秘訣だと思います。

そこで一言「ぜひ一声お聞かせください、お願ひします」

